

# 日本人大学生の海外留学に関する意識調査 —「内向き志向」と留学意思の関係—

小島奈々恵<sup>1)</sup>, 内野 悌司<sup>1)</sup>, 磯部 典子<sup>1)</sup>, 高田 純<sup>1)</sup>  
二本松美里<sup>1)</sup>, 岡本 百合<sup>1)</sup>, 三宅 典恵<sup>1)</sup>, 神人 蘭<sup>1)</sup>  
矢式 寿子<sup>1)</sup>, 吉原 正治<sup>1)</sup>

グローバル人材育成の一環として留学生の派遣が推進されているが、海外留学する日本人学生数は、2004年をピークに減少し続けている。留学を阻害する要因として、留学費用や留学時期以外に、若者の「内向き志向」が問題視されている。そこで、本研究では、「内向き志向」と留学の関係について検討した。「内向き志向」を「内向性」と捉え、留学に関して、内向群と外向群の差について検討した。外向群に比べ、内向群に留学意思はなく、海外での生活や対人関係、語学力不足、留学先の教育レベルの高さなどをより問題視していた。「内向き」な学生の不安を軽減するような留学に関する情報提供により、海外留学は促進されると考えられた。

キーワード：内向き志向，日本人大学生，海外留学

Inward-oriented Japanese students and studying abroad

Nanae KOJIMA<sup>1)</sup>, Teiji UCHINO<sup>1)</sup>, Noriko ISOBE<sup>1)</sup>, Jun TAKATA<sup>1)</sup>,  
Misato NIHONMATSU<sup>1)</sup>, Yuri OKAMOTO<sup>1)</sup>, Yoshie MIYAKE<sup>1)</sup>, Ran JINNIN<sup>1)</sup>,  
Hisako YASHIKI<sup>1)</sup>, Masaharu YOSHIHARA<sup>1)</sup>

The number of Japanese university students who study abroad has been decreasing since 2004. Other than the cost and time of studying abroad, Japanese students being inward-oriented is said to be influencing the decrease of students studying abroad. In this study, the relationship between inward-oriented students and studying abroad is discussed. Compared to outward-oriented students, inward-oriented students did not want to study abroad. They were anxious about living abroad, relationships abroad, language barrier, and the level of education abroad. It was thought that the number of Japanese students studying abroad would increase by giving inward-oriented students information which will relieve their anxiousness.

Key words: inward-oriented, Japanese university students, studying abroad

## I. はじめに

グローバル化する社会の中で、日本を含む国際

社会に眼を向け、広い視野やコミュニケーション力を持ったグローバル人材の育成が高等教育機関の重要な役割となっている。大学では、グローバ

1) 広島大学保健管理センター

1) Health Service Center, Hiroshima University

著者連絡先：〒739-8514 広島県東広島市鏡山1-7-1 広島大学保健管理センター

ル人材育成の一環として留学生の受入れと派遣が行われており、2020年までに、「留学生30万人計画<sup>1)</sup>」が目標とする外国人留学生受入れ30万人、「トビタテ！留学JAPAN<sup>2)</sup>」が目標とする日本人大学生の海外留学12万人を目指す。また、「留学生30万人計画」は、外国人留学生の獲得を念頭にまとめられたものであるが、日本人の海外留学にも着目している<sup>3)</sup>。

海外留学する日本人は、2004年の82,945名をピークに減少し続け、2010年には58,060名となった<sup>4)</sup>。その一方で、世界的な留学生数は増加傾向にあり、2010年には410万人、2000年の2倍となった<sup>5)</sup>。小林<sup>6)</sup>は、日本人の海外留学を阻害する要因として、経済的理由と就職活動時期との重複などの社会的要因、アメリカ集中型から地域分散型に移行中の留学先選択、アメリカの学費高騰、相対的な国力低下、治安不信などのアメリカ留学を引き付けるプル要因の減少、日本人の「内向き志向」などの心理的要因、学生の動機付けを困難とする大学要因の5点を挙げている。産学官によるグローバル人材の育成のための戦略でも、日本の若者の「内向き志向」は問題視されている<sup>7)</sup>。日本人の「内向き志向」はマスコミ等でも取り上げられているが、留学意思や留学経験との関連については検討されていない。

「内向き志向」とは、若者の海外への興味や関心の低さ、実際に留学していない（できていない）こと、母国である日本に留まっていること、留学に対する積極的な姿勢がみられないなど、若者の思考や判断、態度、パーソナリティ等の傾向を幅広く捉えたものだと推察される。「内向き志向」とは、多義的な言葉であり、広義に解釈できるが、本研究では、狭義に捉え、パーソナリティとしての「内向性」に着目した。また、「内向き」であることが海外留学を阻害しているのであれば、「外向き」であることは海外留学を促進すると考えられる。したがって、「内向性」および「外向性」と、留学意思との関係について検討する。さらに、経済的問題や言語問題など留学に係わる問題や、語学力や異文化との触れ合いなど留学を通して得られる力量の捉え方に、「内向き」であることと「外

向き」であることに差があるのか検討し、報告する。

## Ⅱ. 方法

### 1. 調査対象者

調査対象者は大学生491名（男性291名、女性200名）であった。欠損値のあった質問紙を除外し、分析対象者は418名（男性245名、女性173名；平均年齢18.83歳、 $SD=92$ 、不明2名）となった（有効回答率85.1%）。分析対象者のうち、大学入学前に留学経験があった者は10名、大学入学後に留学経験があった者は5名であった。

### 2. 調査手続き

教養講義に出席していた大学生に質問紙（無記名）を配布し、回収した。なお、本調査で得られた情報を研究目的以外に使用せず、結果は全て統計的に処理されるため、個人が特定されるようなことはなく、調査に参加しなくても不利益はないことを説明した。

### 3. 調査内容

**外向性・内向性に関する項目** Big Five尺度<sup>8)</sup>の外向性因子を構成する12項目について、7段階で評定させた。

**留学に関する項目** 留学希望の有無、希望留学先、希望留学期間、留学に関する情報収集の有無、留学経験の有無について回答させた。さらに、小林<sup>6)</sup>を参考に作成した、留学における問題13項目および留学を通して得られるもの9項目について、7段階で評定させた。

**人口統計学的要因** 性別と年齢について回答を求めた。

なお、質問紙には以上の項目以外の項目も含まれていたが、今回の分析には用いなかったもので、詳細は省略する。

### 4. 統計解析

SPSSを用いて分析を行った。各変数（項目）の基礎統計を算出し、外向性因子を用いて外向群と内向群に分析対象者を分類した。外向群と内向

群の違いについて検討するため、各項目の $\chi^2$ 検定およびt検定を行った。

### Ⅲ. 結果

#### 1. 外向群 / 内向群の分類

外向性因子を構成する12項目の信頼性係数は.91であったため、12項目の平均値を算出し、分析対象者を「外向き」の外向群と「内向き」の内向群に分類した。具体的には、平均値+1SDより12項目の平均値が高かったものを外向群とし、平均値-1SDより12項目の平均値が低かったものを内向群とした（全員：M=4.41, SD=1.02）。その結果、外向群は62名（男性24名、女性38名；M=6.04, SD=.52）、内向群は45名（男性40名、女性5名；M=2.63, SD=.73）となった。外向群62名のうち、大学入学前に留学経験のある者は4名であり、大学入学後に留学経験のある者はいなかった。内向群45名のうち、大学入学前にも大学入学後にも、留学経験のある者はいなかった。

表1 外向群 / 内向群と留学意思

|     | 留学意思 |    |
|-----|------|----|
|     | 有    | 無  |
| 外向群 | 53   | 9  |
| 内向群 | 16   | 29 |

表2 外向群 / 内向群と情報収集

|     | 情報収集経験 |    |
|-----|--------|----|
|     | 有      | 無  |
| 外向群 | 19     | 43 |
| 内向群 | 4      | 41 |

#### 2. 外向群 / 内向群と留学意思

分析対象者418名のうち、276名に留学意思があり、142名に留学意思はなく、留学意思のある学生のほうが多かった。外向群 / 内向群と留学意思に関する関連性について検討するため、 $\chi^2$ 検定を行ったところ有意であった（ $\chi^2=28.38$ ,  $df=1$ ,  $p<.001$ ；表1）。すなわち、外向群には内向群よりも、留学意思があった。

さらに、留学に向けて実際に行動（情報収集）しているか否かについても検討した。分析対象者418名のうち、70名は情報収集しており、348名は情報収集しておらず、情報収集していない学生のほうが多かった。外向群 / 内向群と情報収集に関する関連性について検討するため、 $\chi^2$ 検定を行った。5以下のセルがあったため、イエーツの補正を行った結果、有意であった（ $\chi^2=6.08$ ,  $df=1$ ,  $p<.05$ ；表2）。すなわち、外向群は内向群よりも、留学に関する情報収集をしていた。

希望留学先（表3）および希望留学期間（表4）についても整理した。外向群においても、内向群

表4 希望留学期間

|             | 全員   |     | 外向群  |    | 内向群  |    |
|-------------|------|-----|------|----|------|----|
|             | %    | 人数  | %    | 人数 | %    | 人数 |
| 数週間～1ヶ月以内   | 37.8 | 158 | 33.9 | 21 | 42.2 | 19 |
| 1ヶ月以上～3ヶ月以内 | 25.4 | 106 | 29.0 | 18 | 26.7 | 12 |
| 3ヶ月以上～6ヶ月以内 | 8.9  | 37  | 4.8  | 3  | 11.1 | 5  |
| 6ヶ月以上～1年以内  | 12.4 | 52  | 19.4 | 12 | 0.0  | 0  |
| 1年以上～2年以内   | 8.1  | 34  | 4.8  | 3  | 8.9  | 4  |
| 2年以上        | 4.1  | 17  | 6.5  | 4  | 4.4  | 2  |
| 不明          | 3.3  | 14  | 1.6  | 1  | 6.7  | 3  |

表3 希望留学先

| 順位 | 全員       |      |     | 外向群      |      |    | 内向群      |      |    | 参考：文部科学省集計2010年 <sup>1)</sup> |      |       |
|----|----------|------|-----|----------|------|----|----------|------|----|-------------------------------|------|-------|
|    | 留学先      | %    | 人数  | 留学先      | %    | 人数 | 留学先      | %    | 人数 | 留学先                           | %    | 人数    |
| 1  | アメリカ     | 30.1 | 126 | アメリカ     | 24.2 | 15 | アメリカ     | 42.2 | 19 | アメリカ合衆国                       | 36.7 | 21290 |
| 2  | イギリス     | 17.2 | 72  | イギリス     | 22.6 | 14 | ドイツ      | 13.3 | 6  | 中国                            | 28.9 | 16808 |
| 3  | オーストラリア  | 11.5 | 48  | オーストラリア  | 12.9 | 8  | イギリス     | 6.7  | 3  | イギリス                          | 6.6  | 3851  |
| 4  | ドイツ      | 7.7  | 32  | フランス     | 11.3 | 7  | オーストラリア  | 4.4  | 2  | オーストラリア                       | 4.2  | 2413  |
| 5  | フランス     | 7.7  | 32  | カナダ      | 9.7  | 6  | 韓国       | 4.4  | 2  | 台湾                            | 4.0  | 2302  |
| 6  | カナダ      | 4.1  | 17  | ドイツ      | 3.2  | 2  | 台湾       | 2.2  | 1  | ドイツ                           | 3.7  | 2135  |
| 7  | ニュージーランド | 3.8  | 16  | 韓国       | 3.2  | 2  | カナダ      | 2.2  | 1  | カナダ                           | 3.6  | 2097  |
| 8  | 韓国       | 2.6  | 11  | ニュージーランド | 3.2  | 2  | フランス     | 2.2  | 1  | フランス                          | 3.0  | 1743  |
| 9  | 中国       | 2.2  | 9   | 台湾       | 1.6  | 1  | ニュージーランド | 2.2  | 1  | 韓国                            | 2.0  | 1147  |
| 10 | 台湾       | 1.2  | 5   |          |      |    |          |      |    | ニュージーランド                      | 1.7  | 998   |
|    | その他      | 7.9  | 33  | その他      | 4.8  | 3  | その他      | 15.6 | 7  | その他                           | 5.7  | 3286  |
|    | 複数回答     | 1.4  | 6   | 複数回答     | 1.6  | 1  |          |      |    |                               |      |       |
|    | 不明       | 2.6  | 11  | 不明       | 1.6  | 1  | 不明       | 4.4  | 2  |                               |      |       |

注1) 文部科学省集計<sup>4)</sup>を引用。

においても、アメリカ留学を希望する者、3ヶ月以内の留学期間を希望する者が多かった。また、外向群においては、イギリス留学を希望する者、6ヶ月以上～1年以内の留学期間を希望する者も比較的多かった。

### 3. 留学における問題

学生の留学における問題に関する各項目の得点を表5に示した。得点が高いほど、各要因に問題があると学生が感じていることを意味した。全13項目の得点は、中央値の4.00以上（得点は1.00～7.00の間）であり、費用や語学力、海外での生活、留学時期、留学手続きなどに、学生が問題を感じていることが示された。

外向群と内向群の間に差があるか検討するため、対応のないt検定を行った。その結果、「海外での生活に不安がある」「海外での対人関係に不安がある」「日常的な語学力が不足している」「学術専門的な語学力が不足している」「手続きが煩雑である」「留学先の教育施設・教育環境レベルが高い」の6項目に有意な差がみられ、「学費がかかる（学費が高額である）」「海外留学に関する情報が不足している」の2項目に傾向差がみられた。どの項目においても、外向群の得点に比べて、内向群の得点のほうが高かった。すなわち、外向群より内向群のほうが、より問題を感じていた。

### 4. 留学を通して得られるもの

留学を通して得られるものに関する各項目の得点を表6に示した。得点が高いほど、各要因について留学を通して得ることができると学生が考えていることを意味した。全9項目の得点は、中央値の4.00以上（得点は1.00～7.00の間）であり、異文化感性や語学力、自己の内的成長、就職活動に役立つ経験、国際的ネットワークなどを、留学を通して得られると学生が考えていることが示された。

外向群と内向群の間に差があるか検討するため、対応のないt検定を行った。その結果、「就職活動に役立つ経験」「自己の内的成長」「日本人アイデンティティ」の3項目に傾向差がみられ、内向群の得点に比べて、外向群の得点のほうが高い傾向にあった。

## IV. 考察

### 1. 留学に関する学生の特徴

留学意思のあった学生は276名おり、留学意思のなかった学生142名の約2倍存在した。その一方で、留学に関する情報収集を行っている学生は70名しかおらず、全体の約6分の1であった。留学したい気持ちはありつつも、留学に関する情報を収集するなど、留学に向けて実際に行動していない学生が多く存在することが示唆された。費用

表5 留学における問題

|                     | 全員   |      | 外向群  |      | 内向群  |      | 差の検定  |         |
|---------------------|------|------|------|------|------|------|-------|---------|
|                     | M    | SD   | M    | SD   | M    | SD   | t 値   | df      |
| 日常的な語学力が不足している      | 5.65 | 1.45 | 5.52 | 1.58 | 6.29 | 1.20 | 2.88  | ** 105  |
| 学術専門的な語学力が不足している    | 5.20 | 1.62 | 5.27 | 1.73 | 6.07 | 1.25 | 2.75  | ** 105  |
| 渡航費や滞在費がかかる         | 5.66 | 1.44 | 5.69 | 1.63 | 6.11 | 1.15 | 1.47  | 105     |
| 学費がかかる（学費が高額である）    | 5.64 | 1.47 | 5.65 | 1.75 | 6.16 | 1.07 | 1.87  | † 102   |
| 住居の確保が難しい           | 5.02 | 1.52 | 5.06 | 1.74 | 5.51 | 1.50 | 1.39  | 105     |
| 留学先の教育施設・教育環境レベルが高い | 4.48 | 1.48 | 4.19 | 1.67 | 4.87 | 1.52 | 2.14  | * 105   |
| 留学先の教育施設・教育環境レベルが低い | 4.28 | 1.47 | 4.13 | 1.63 | 4.27 | 1.84 | 0.41  | 105     |
| 卒業が遅れる              | 4.85 | 1.70 | 4.61 | 1.88 | 4.84 | 1.74 | 0.65  | 105     |
| 就職活動の開始時期が遅れる       | 4.86 | 1.73 | 4.74 | 1.97 | 4.64 | 1.81 | -0.26 | 105     |
| 手続きが煩雑である           | 4.76 | 1.61 | 4.50 | 1.96 | 5.47 | 1.25 | 3.11  | ** 104  |
| 海外留学に関する情報が不足している   | 5.04 | 1.54 | 5.05 | 1.76 | 5.60 | 1.29 | 1.78  | † 105   |
| 海外での生活に不安がある        | 5.19 | 1.76 | 4.82 | 1.92 | 6.04 | 1.38 | 3.83  | *** 105 |
| 海外での対人関係に不安がある      | 5.08 | 1.77 | 4.73 | 2.00 | 6.09 | 1.16 | 4.43  | *** 101 |

注1) 差の検定結果は、外向群と内向群の差の検定結果である。

注2) \*\*\* $p < .001$ , \*\* $p < .01$ , \* $p < .05$ , † $p < .10$

表6 留学を通して得られるもの

|             | 全員   |      | 外向群  |      | 内向群  |      | 差の検定    |     |
|-------------|------|------|------|------|------|------|---------|-----|
|             | M    | SD   | M    | SD   | M    | SD   | t 値     | df  |
| 語学力         | 5.92 | 1.17 | 6.11 | 1.04 | 6.11 | 1.19 | -0.01   | 105 |
| 異文化感性       | 6.06 | 1.13 | 6.31 | 0.93 | 6.04 | 1.22 | -1.26   | 105 |
| 国際感覚        | 5.91 | 1.16 | 6.24 | 0.94 | 5.96 | 1.21 | -1.38   | 105 |
| 専門知識        | 4.88 | 1.31 | 5.05 | 1.42 | 5.00 | 1.45 | -0.17   | 105 |
| 国際的ネットワーク   | 5.22 | 1.22 | 5.48 | 1.05 | 5.44 | 1.27 | -0.18   | 105 |
| 就職活動に役立つ経験  | 5.33 | 1.32 | 5.56 | 1.29 | 5.04 | 1.59 | -1.86 † | 105 |
| 異文化との触れ合い   | 6.06 | 1.13 | 6.35 | 0.99 | 6.13 | 1.18 | -1.05   | 105 |
| 自己の内的成長     | 5.94 | 1.21 | 6.26 | 1.05 | 5.76 | 1.52 | -1.90 † | 73  |
| 日本人アイデンティティ | 5.41 | 1.32 | 5.82 | 1.19 | 5.31 | 1.49 | -1.97 † | 105 |

注1) 差の検定結果は、外向群と内向群の差の検定結果である。

注2) † $p < .10$

や留学時期、留学手続きの煩雑さなど、留学を阻害する外的要因が存在し、それらによって留学を諦めざるを得ない状況があることは否定できないが、学生自身が留学に関して積極的であるとも言い難い結果が得られた。

また、3ヶ月以内の短期留学を希望する学生が多く、アメリカ、イギリス、オーストラリアなど英語圏への留学を希望する学生が多かった。文部科学省集計<sup>4)</sup>(表3参照)によるデータと異なり、中国への留学を希望する学生が非常に少なく、本研究の対象者の特徴と言える。英語圏への留学を希望しつつも、費用などの面で留学可能な中国へ留学する日本人学生が多く存在するのかもしれない。また、留学に関する情報収集を行っている学生が少ないことから、諸外国に関する情報を収集していないことや諸外国に対する興味や関心が低いことが推察される。「英語＝グローバル人材」ではないため、近隣のアジア諸国にも興味や関心を持ってもらえるように、政治や文化に関する情報を提供していくことも重要と考える。非英語圏にも興味や関心を持ってもらうことが、海外留学を促進させると考える。

## 2. 「内向き志向」について

本研究では、留学の阻害要因として挙げられる「内向き志向」を「内向性」と捉え、Big Five尺度<sup>8)</sup>の外向性因子を用いて測定した。「話し好き」「無口な」「陽気な」「外向的」「暗い」「無愛想な」「社交的」「人嫌い」「活動的な」「意思表示しない」

「積極的な」「地味な」の12項目で測定され、得点の高い群を「外向群」、得点の低い群を「内向群」とした。

しかし、「内向き志向」を「内(日本)に興味がある」「内(日本)が居心地良い」「内(日本)での生活に満足している」もしくは「外(海外)に興味ない」「外(海外)は居心地悪い」「外(海外)での生活に不安がある」とも捉えることができ、その捉え方は様々である。小林<sup>6)</sup>も指摘するように、海外留学する学生の減少についてマスコミが「内向き」と短絡的に考え、用いた用語でもあり、その扱いには注意が必要である。

## 3. 「内向き志向」と留学

「内向き志向」を「内向性」と捉えたとき、外向群に比べて、内向群に留学意思はなかった。したがって、留学を阻害する要因のひとつとして、「内向き志向」を挙げることができる。しかし、「内向き」であるために、海外留学しない若者が増加しているとは言い難い。

留学を阻害する要因として、費用、語学力不足、海外での生活に対する不安、情報不足などがあることが確認された。外向群に比べて、内向群は、海外での生活や対人関係に不安があり、語学力の不足、手続きの煩雑さ、留学先の教育レベルの高さを特に問題視していた。「内向き」である学生が抱えるこれらの不安を軽減させることで海外留学を促進させることができると考える。

また、外向群に比べて、内向群は、就職活動に

役立つ経験, 自己の内的成長, 日本人アイデンティティは留学を通して得られにくいと考える傾向にあった。各項目の得点は比較的高かったため, 得られないと考えてはいなかったものの, 留学を通して得られるものの多さについて知ることができれば, 海外留学は促進されるかもしれない。

## V. まとめ

本研究では, 学生の「内向き志向」と留学意思の関係について検討した。その結果, 「内向き」な学生には留学意思がないことが示唆された。「外向き(外向群)」な学生に比べて, 「内向き(内向群)」な学生は, 海外での生活などの留学における問題をより問題視していることが明らかとなった。自ら情報収集を行う学生が少ないため, 学生の海外留学を促進させるためには, 留学を推進する機関などが海外での生活などに関する情報を発信していくことが重要となることが示唆された。特に, 「内向き」な学生の不安を軽減させるような情報が重要となる。

留学決定前には, 適切な情報を提供することで不安を軽減させるのが有効である。留学を迷っているときや留学決定後には, 学生自身が抱える不

安をしっかりと聴き, 寄り添うことが重要となる。必要に応じて, 解決策と一緒に模索することも大切になる。

## 引用文献

- 1) 文部科学省, 外務省, 法務省, 他: 「留学生30万人計画」骨子, 2008.7.29.
- 2) 文部科学省: 留学促進キャンペーン「トビタテ! 留学 JAPAN」, 2013.10.
- 3) 文部科学省: 「『留学生30万人計画』の骨子」とりまとめの考え方, 2008.4.25.
- 4) 文部科学省集計: 日本人の海外留学状況, 2013.2.
- 5) OECD: Education at a Glance 2012: OECD Indicators. OECD Publishing, 2012.
- 6) 小林 明: 日本人学生の海外留学阻害要因と今後の対策. ウェブマガジン『留学交流』, 2011年5月号.
- 7) 産学連携によるグローバル人材育成推進会議(文部科学省): 産学官によるグローバル人材育成のための戦略, 2011.4.28.
- 8) 和田さゆり: 性格特性用語を用いた Big Five 尺度の作成. 心理学研究, 67: 61-67, 1996.